



刊行にあたり

東京農業大学生物産業学部は、世界自然遺産\_\_知床のもと、世界トップ水準の第一次産業が営まれている北海道オホーツク地域に、平成元年（1989年）に開設されました。これに先立つ1982年に網走寒冷地農場が開場し、本学部開設の礎となっています。本学部は、東京農業大学の教育の理念である「実学主義」に基づいた実践的教育と研究から始まった学部であるといえます。現在は、オホーツク臨海研究センター、食品加工技術センター、家畜動物舎、ファイントレールと多様な施設が増え、実践的教育・研究が行われています。“オホーツクからの施設だより”では、各施設で行われている教育・研究活動等を紹介し、皆様の教育研究推進に利用できる施設であることを、あらためて知って頂くことを目的に刊行することといたしました。皆様の身近にある施設等であることを感じて頂ければと存じます。

生物産業学部長 吉田穂積

網走寒冷地農場

生物産業学部の礎

網走寒冷地農場は、生物産業学部在先立ち、「大規模畑作の実習、産・官・学一体となった教育と研究の推進、地域と共に歩む大学農場」を目指し1982年に開設されました。



寒冷地農場の圃場(20 ha)



大型機械による小麦の収穫作業

農大、JA、網走市の三者で運営され、第24営農集団（現 農事組合法人網走農場）の一員として活動

「営農」：小麦、ビール大麦、種子馬鈴薯および甜菜などを栽培  
地域農家と高生産農業・大規模機械化畑作農業を具現化

「教育」：学部生や大学院生の研究の一環としての試験研究畑活用  
実習でプロ（農家）の指導を受けるための調整役

「研究」：網走寒冷地農場運営協議会による産官学一体の研究体制  
地域の共同研究体制の調整や農場プロジェクトによる研究のサポート



学生による調査風景



# オホーツク臨海研究センター

## オホーツク水圏の実践教育・研究を展開

2006年、生物資源の宝庫であるオホーツク海に開口した能取湖湖畔に、学部施設として設置。1階に飼育室、2階に各種実験室が配置され、調査艇“かいよう2”も配備。



水槽が並ぶ飼育室

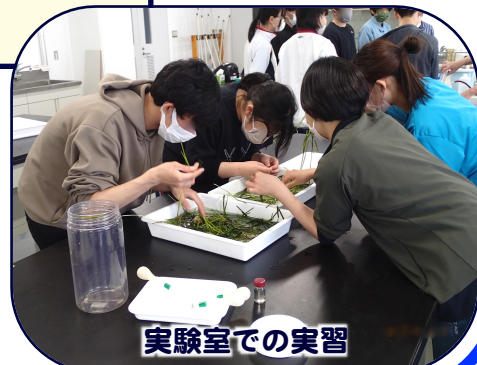
海水、汽水、淡水、冬季には海水とさまざまな水圏環境のもと、実験・実習を実施。網走市、地元漁業協同組合、水産試験場等の機関との連携特徴的な環境を活かした先進的な研究の推進



かいよう2での調査

生物産業学部の各学科の実験・実習、他学部の実習や調査研究、併設校の実習等受入れています。水圏以外のフィールド調査の拠点としても活用できます。

北海道網走市能取港町1-1-2  
TEL.: 0152-61-8422



実験室での実習

# 食品加工技術センター

## 食品加工の拠点

食品加工技術センターは、食品加工を行う施設で8業種の営業許可を取得しています。

- ・菓子製造業
- ・食肉製品製造業
- ・水産製品製造業
- ・乳製品製造業
- ・アイスクリーム類製造業
- ・清涼飲料水製造業
- ・そうざい製造業
- ・密封包装食品製造業

加工センターはビールの試験醸造の免許も取得している施設です。2022年10月に新設のビール醸造装置が設置されました。網走市内の水産会社から依頼を受けた醸造家が、新設醸造装置を使い、商品開発を行いたいとの話も出ています。



新ビール装置



熊谷喜八先生にパイを習っているところ

センター利用講習を受けた人であれば学科問わず誰でも利用出来る施設となっています。

食香粧化学科の講義の中で食品製造実習がある他、友人同士や有志で製造を行うなどの利用も増えています。